

アンコールワットにて

観音 土日

平成15年3月
第37号

発集発行
広島県安芸郡府中町
茂陰2丁目2-8-4
真言宗 正観寺
小出 真行

「縁」

如來の智恵の海は

広くして無辺である (宗秘論)

春には色とりどりの花が咲き、私たちの目を楽しませてくれます。この草木が花を咲かせるためには、春という暖かい季節の到来が必要であり、もちろん太陽の光りや雨の恵み、爽やかな風も必要とします。これを自然の「縁」というのでしよう。

人間同士にも様々な縁の結びあいがあります。親子、兄弟、夫婦、友人といった直接的な縁もありますが、一方自分には関わりがないように見えても、実は関係し合っている縁もあります。昔の人は「袖摺り合うも多生の縁」という言い方で因縁のはたらきによって生かされていることを表現しています。

せっかくこの世に頂いた縁、この縁をさらに仏さまとの縁に広げていきたいものです。

「アンコールワット」 ベトナム研修旅行①

青年僧侶の会である「密青会」の四十周年記念研修旅行の企画（昨年十一月五日より九日迄の五日間）に参加。

五日当日、朝七時三十分広島駅新幹線口に集合した面々は、多聞院、持明院、不動院、正覚院、大師寺、道隆寺、浄心院、正観寺の九ヶ寺と添乗員の十名。

新幹線にて博多、地下鉄に乗車し、発着場所の福岡空港に到着、搭乗手続きを終え、タイ国際航空にてバンコクへ（所要時間は五時間二十分）。

バンコク空港では、滑走路とゴルフ場が併設してあり、ゴルフ場をまたいで空港に到着するのは驚いた。途中信号機があり、最初何の為何か解らなかつたが、ゴルフのバックを持った人が信号待ちをしていたので判明した。

バンコクより、バンコクエアウェイズにて目的地、カンボジア（人口九百万人、面積は日本の約半分）のシエムリアップへ一時間のフライトだ。空港に到着後、現地係員の出迎えをうけ、ソフィテル・ロイヤル・アンコールホテルに移動し、バイキング料理に舌鼓、このホテルだが、アンコールワットに一番近くて新しいホテル、南国とヨーロッパを混合した上品な雰囲気ですとめられ緑多いエリアに建てられ本当に静かで落ち着ける感じ

がしたが、十一月なのになんと暑さは三十度を超えていた。

翌朝、朝食をすませ、ペットボトルを片手にアンコール遺跡の見学に出発した。道路には輪タク（自動車やバイクの後に乗車出来る仕組み）が多い。バイクだがよく目を凝らして見ると驚いたことに一台に家族四〜五名が乗っている、そういった風景がほとんどだ。こちらでは五〇CCは免許がいらず、気軽に乗れるらしい。自動車は以外と少ない。

遺跡の中で印象的だったものを紹介しよう。まず最初に、見学したのが「プリアカーン遺跡仏教寺院」、ここは、戦勝祈念と父親の菩提寺として建つた仏教寺院で、入口では大蛇を抱える神々と阿修羅の欄干が出迎えてくれる。プリアカーンとは「聖なる剣」を意味するそうだ。当時の内部事情を伝える碑文や、ヴィシヌヌ神（救済神・ヒンドウー



ラーマ王子の活躍が描かれる

教の三神の一つ）、シヴァ神（破壊・創造の神）、ウーマーカナ物語などの彫刻も数多く残っている。しかし、自然の猛威と人為的な破壊の度合いがひどいとのことである。

「ニャックポアン遺跡」仏教遺跡

慈悲深き王、ジャヤヴァルマン七世が、観世音菩薩の慈悲の恵みが病人に与えられるように願っ

て造った沐浴場であり、池の中央に観音堂が立ち（現在は何も無いが、当時は仏陀像か観音像が置かれていたらしい）島の周りは絡み蛇とよばれる巨大な二匹の蛇の石彫に取り囲まれている、この二匹の蛇の尾が交差していることから「交差した蛇」という意味のジャックポアンと名付けられた。

中央の池の東側には大きな馬の左右に幾人もの人がぶら下がっている石像があり、この馬は観世音菩薩の化身の姿で病人たちが苦しみから逃れ、静寂で安心の場所である大空へ連れて行ってもらおうとする光景を表している。

「タブロム遺跡」仏教寺院

「梵天の古老」を意味し、ジャヤヴァルマン七世の母親の霊を祭った霊廟寺院で自然と共存させるように境内には巨大な榕樹（スポアン）が、大蛇のよ

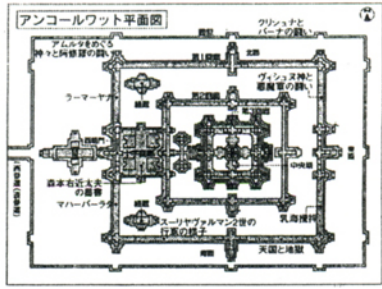


うに建物にのしかかり、太い根を張っている。この榕樹は成長が早く、遺跡を覆い隠すような姿になっていた。



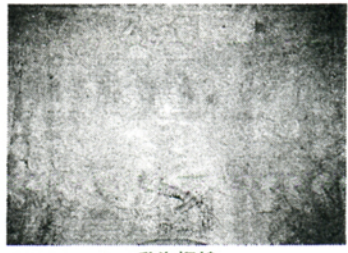
「アンコールワット遺跡」ヒンドゥー教遺跡

12世紀前半、スー
リヤヴァルマン2世
によって30年余りの
年月を費やして建造
したクメール建築物、
アンコールとは王都、
ワットとは寺院のこ
と。ヒンドゥー教の
ヴィシュヌ神寺院と
して、また王の墳墓として造られた世界最大規模
を誇るスケールもさることながら、幾何学的構造
や正確に大きさを揃えた石材を積み重ね接着剤な
しにびったりと接合した技法は世界に類をみない
ものようだ。(尚、どの石も二ヶ所の穴をあけて
であり、どうやらそこに何かではさみ積み上げた
らしい)



スーリヤヴァルマン2世

このアンコールワット
は、レリーフの宝庫でも
あった。特に、ヒンドゥ
ー教の天地創造物語、ヴ
イシュヌ神が、八十八人
の神々と九十二人の阿修
羅に蛇の胴体を綱にして
綱引きをさせながら、海
をかき回し、海は乳海と

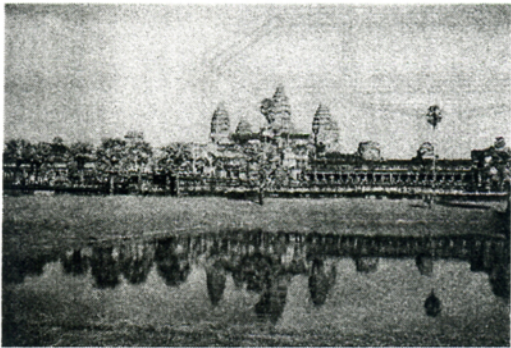


乳海攪拌

り、観光に訪れた人々に買ってもらおうと必死だ
った。ガイドに聞いた話では、その利潤で学校に
払うお金を工面しているらしく、ついつい買っ
てしまうようだ。

遺跡の周辺には、「アリ塚」が多く点在してい
るのを見うけられる。この「アリ塚」には神様が
宿る神聖なものとして壊さないとの事だった。

尚、このア
ンコールワッ
トには、森木
右近太夫とい
う人物が加藤
清正に仕えた
父の供養の為
に訪れたとき
は落書きで仏
像四体を奉納
した旨が記さ
れている。



アンコールワット

なり、そこから天女ア
サラが生まれ、ついに不
老不死の妙薬である甘露
が得られたと伝えられて
いるのが「乳海攪拌」だ。
遺跡に一步足を踏み入
れようとすると、小物を
持った子供達が群らが

仏壇はどちら向き?

仏壇の向きは一般に南向きか、さもなければ東
向きがよいといわれています。これは東西南北を
陰陽に分けますと、東と南が陽、西と北が陰の方
位になりますので、陽の方に向けるのがよいとい
うことです。

宗教では「菩提心転昇」の次第を示した「因行
証人」の四転を東西南北に配し、東の因の「発心」、
南を行の「修行」、西を証の「菩提」、北を入の
「涅槃」の方位に当てています。この考えからし
ますと、ご先祖さま方は仏果の涅槃に入られてい
るのですから、仏壇の位置は当然北になり、した
がって南向きとなるわけです。四転と方位との関
係に少し述べてみますと、東は春で播種、南は夏
で成育、西は秋で結実、北は冬で収穫となるわけ
です。

また、東向きもよいというのにも理屈がありま
す。東は太陽の出る方角で因、西は太陽の没する
方位で果、因果の関係からしますと仏壇は当然果
位の西に置かれることになりますから、したがっ
て東向きとなるわけです。こうしたことから考え
てみましても、仏壇の向きは南向きか東向きとい
うこととなります。しかし、必ずしもこれにとら
われることはありません。方位の決め方に磁石の
針の示すとおりにしたがう「随方」と、そうした

ことにいっさい関係なく、その向いている方角を南としてしまう「運心」というのがあるからです。仏壇の向きは間取りの関係、家具の配置の関係、その他使い便りの関係などで、なかなか理想通りにはゆかないものです。そうした場合には迷うことなく「運心」でもって、その部屋では仏壇が向いている方角が南と思えばよいのです。

鐘楼堂建立についてお願い

「祇園精舎の鐘の聲 諸行無常の響きあり」

梵鐘のしんしんとした音色は聞く人をして心を自ら澄ませる不思議な魅力があります。

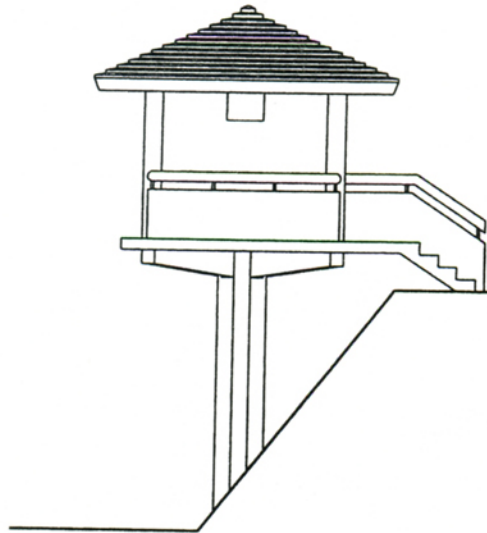
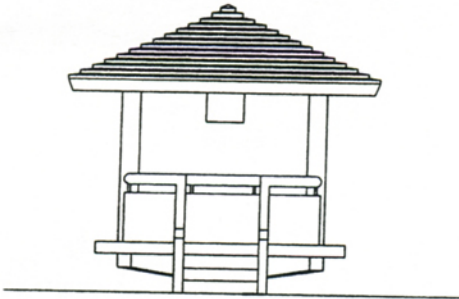
梵鐘の「梵」という字は「清浄」という意味であり、正に佛教寺院の象徴です。また、修行研鑽の道場であり、仏事・法要の聖地であるお寺にとって、梵鐘は行事の終始時を告げる尊い仏具の一つなのです。

あの美しい音色を、今一度再現しようという声も日増しに高まりこの度、鐘楼堂を建立する運びとなりました。

皆さまと共に梵鐘を打ち鳴らし、世界平和と地域社会の安泰を祈ろうではありませんか。一打一打に家庭円満を祈り、その妙音をご供養の心でご先祖の元へお届けしましょう。

主旨にご賛同いただける皆様の
浄財を受け付けております。

鐘楼堂立面図



参加者募集

一、平成十五年四月十四日(月)

～十六日(水) 二泊三日

『小豆島巡拝』

費用 三六、〇〇〇円

二、平成十五年七月二日(水)

～三日(木) 一泊二日

『石鎚山参拝』

費用 三三、〇〇〇円

※お問い合わせ

〇八二―二八二―五六六二迄

○平成十五年度 年間行事予定

一月一～三日 修正会

一月 十八日 初観音

二月 三日 星祭

三月 九日 観音大祭

三月二十一日 春季彼岸

四月十四日～十六日 小豆島巡拝

七月二日～三日 石鎚山参拝

八月二十四日 地藏祭

九月二十三日 秋季彼岸

十二月三十一日 年越し祭